

第 48 回日本免疫学会学術集会に参加して

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

霊長類医科学研究センター

山川 奈津子

2019年12月11日から13日までアクトシティ浜松で開催された、第48回日本免疫学会学術集会へ参加しました。本年の学会では、Immunometabolism、アレルギー、感染症、がん免疫等がシンポジウムのテーマに選ばれていました。さらに、免疫と代謝、免疫と神経学のように、より広い視点で免疫学を捉えた研究がトレンドである印象を受けました。もしも、このトレンドに乗るとすると、戦略としては免疫学者が専門外の分野も学ぶ方法が1つ、もう1つは異分野の専門家と共同研究する方法があると思います。学生ならば、たとえ基礎レベルでも多くの分野、インフォマティクスや工学等も学んでおくと、異分野の話も理解できるため将来的に有利になると感じました。

本年の学会は、疾患と関連した研究発表が多かったように感じます。基礎研究が大事であることに変わりはありませんが、どうしても実社会に直接的に役立つ研究を遂行せざるを得ない現状があるのかもしれませんが、Special lecture では本庶佑先生の講演を拝聴しました。先生もPD-1と癌から腸内環境まで幅広く研究されていて、1つの分子に特化した研究を行える時代から身体全体に着目する時代へ移行しつつあることを実感しました。

私自身は、昨年まで留学していたYale大学での研究成果を口頭およびポスター発表しました。ヒトTLR7機能欠損患者さんおよび御家族の、主に血液細胞の機能解析を行った結果報告です。口頭発表では時間内に収めることで精一杯でしたが、ポスター発表で多くの方に興味を持って頂き、大変手応えを感じました。また、共同研究のお誘いを頂いたりもでき、本研究テーマの重要性を改めて実感しました。4年ぶりの日本免疫学会参加でしたが、以前よりも英語での質疑応答が円滑になっていたことが印象的でした。免疫学会の国際化が定着し始めていることを体感しました。

留学先での研究成果の発表であったため、学会参加に使用できる研究費を持ち合わせていませんでしたが、BioLegend/Tomy Digital Biology様のお陰で大変有意義な経験をできました。頂いたチャンスを無駄にせず、学会で得られた情報や人脈を今後の研究活動へ活かします。どうもありがとうございました。